

1.558午戊年元祿永

1.570庚午元龜元

1.59乙辰壬午元祿文

元年足利幕府亡織田信長代執政權明年甲南壹寺ニ京都四條坊門ヲ建て大吉支丹宗門を弘む
牧師等醫療を施し又天文築城等諸技術を傳へ西洋學藝の我國ニ入りて此時を始とす
京都古國寛永寺住尼寺ニ涉り洞院高辻東路の大白町の名より大白殿デウス(天主)之謂也南壹寺
所在地地理よき通ふ又一俗安堵の東方大白山の名より最初永禄寺建置遺蹟と覺る
南壹寺鐘とて洛西妙心寺子在リ高ニ尺余口至一尺半西暦一五七二年正月廿五日立
四年丙午信長居城を江州安土山に移す其城櫻石塁の結構總て葡人の手にて經營されたり南後の
城郭築造諸國共ニ此式の則ルリ
八年庚辰伊勢白子人久須美重俊御名居城田家より朱印状を賜り諸國舟行任意たりしが其子小兵衛次
相繼き長崎ニ來往し外商と交易して家産十倍すと云ふ
此時代播州平野郷ニ末吉勘兵衛前と云ふ小者僕ノ迦船を利用して頻々商業を起す後裔ニ至りて
南洋等航行し外商貿易亦盛る行は末吉松是なり
利方慶長甲申元年慶次慶安慶寅孔
九年癸巳安土城下ニ天主教院を建て葡萄羅句語等傳習す先是九州ニ大有馬前府内臼杵徳等同教院
設置し傳道の傍各般の言詮技術を信徒に授けたり○是歲乙巳西班牙國船始て長崎港ニ入る
十年壬午西國三大名大友有馬大村ハヅリも吉利支丹信者等使節者ニ歐羅巴洲ニ遣り貢物を捧ぐ
十二年甲辰江州大名蒲生秀郷も亦使節者ニ羅馬子遣り法王ニ獻上物たり
十四年丙午後陽成帝即位先是壬午織田信長遣弑其臣羽柴秀吉代握政權竟陞關白職賜豊臣姓明年丁
島津侯達敷の罪を問ふ其凱旋途上ニ於て切支丹謂ひ乍く神社佛閣を破却すと聞き以ての外なり
新宗門ナリ伴天連共本國へ追逐せし令す乃長崎を收て官地とす但黒船賣買も如舊と許可あり
十七年丑未南壹寺を廢し牧師一切放逐す其不肖者殺し之時歩駒三百人信徒三十万人と注したり
十九年辛卯國印度總督使節來秀吉ハルを引見す羊皮書體
秀吉付支丹文牒ニモ擅て貿海外貿易を國益と見て半耕半戰の制度を定め
吉支丹舟とすとぞも吉支丹の名を避け且切伏の寫意を抱き若者をかくも商人漁人等の名を付すとぞ
吉支丹舟とすとぞも吉支丹の名を避け且切伏の寫意を抱き若者前後八十氏と云ふ
三年甲子天草天主教會ニア葡萄牙羅匈日本三國對談辭書を活字刊行す此前後伊曾保物語日本文典
日本節用集等を上版せたり

元年葡國松一隻肥前深江來了其良灣等了見了其年約して去了地頭長崎基上衛門横市街を建設して待之翌夏如約葡船三艘來了尔後每年商船出入して長く至市場となり長崎港是也。先是葡萄牧師又肥後天草島子布教に竟々天主教會を起し學堂を置き彼我の文字言語の協通を謀りて歴史教訓警誦等の歐羅巴書を日本語に翻譯し活字版にて刊行せり但し其該文を横文字にて所謂羅馬綴古リ

五年戊辰先是蘿人よりラベ丁力と小樂器を船載す今胡弓なり是年泉州堺浦の琵琶法師中小路
といふ小人試る琵琶の様を把て彈る五音親和して旋律尤諧いたれど也歌曲抑揚の音器とし都人
女子専傳小やがて四方へ流りて我國樂器の一となつ三昧樂器是也ラベ丁力苟乎詔すて今之バオリン等即變轉易りて三絃四絃となつて其癡音で
古来此樂器の音響を考據せり其模もア獨彈すてこそ我國の特長なる事無く天正元年天主教禁制の時ヨリホルトガルを忌避けて琉球へと覺えり琉球族皮頭絃の第一人琉球組と云ひ其曲名歌詞も此翼達理の夫子然
了月十十五夜と盛り我若ナサナシ以へもさかりとあり此註大豐臣闘白の全盛と稱賛して京童
の舞ひに詠ひしもの吉左右端と云ふ琉球ト何等の縁故なし琉球組と表せしも其名を借り
い子遇きしと想へり但し三線を組めんため流行の時詔を借りたる時より取て之の才覺也
七年甲辰肥前平戸天主教堂建築大門寺と號す然共松浦侯もと牧師ト信せず故ニ爾後之菊國船
多々同大村領となり福田浦(里崎西)に入りと云ふ
八年乙巳義輝將軍遣祇十一年底尾濃國主織田信長其弟義昭を奉じて京都に入り足利幕府再造此時
近畿諸國主僧徒跋扈し巌山南都高野根來を始め一向法華寺等の各宗互に兵力を蓄へ争鬥を事
とす信長其對抗策として天主教牧師を兩國より招致し永祿寺を新置せんと才天台僧道傳を幕府
子歎詐す年號を寺號とす了て延暦寺の外佛寺より許すべからざる制なりと信長止ひ得ず暫停文
更ニ教多の牧師を招く後三年未だ遣兵巌山を圍み火を堂塔を放ち三千僧坊悉灰燼付いたり

1.596 庚元年兩長慶

三年 戊辰秀吉薨 五年 壬寅亂平く政權自帰徳川家康が置幕府于江戸後三年即任征夷將軍
五年 庚子英吉利人アガーハス手蘭人ナシヨ等一船ナリテ乘り泉州場浦ニ來り通商乞ふ家康許之此
此時英人ナシ東印度商會を起し蘭人ナシ東印度商社を建て越テ東洋貿易を行ふ故ニ日本より此
諸求みたるに家康命じて江戸ヨミトシメ其請を許すアダムス等街造船術ニ通じたれど留めて
傳播を興へ姓名を三浦按針ト稱セシム在室二十年元和庚申平戸ニ死
九年 甲午張人稱富直家仰道銃砲百箇條を著作し家康父子ヲ傳ふと云ふ直家号一英
十四年 西平戸子和蘭商館を置く幕府より渡海免狀を興へラニ
其文おらん於船日本往来之時何之浦ニ至る者岸不可有相違不向後守此旨無異儀可種往来
斯跡意有間敷シ仍加併
十六年 辛未後水尾帝即位先是已徳川家康辞職猶大御所子秀忠為二代將軍
奉半年表辛未九月條ニ南蛮世界因屏風御覽ノ異域國々の佈沙汰子及小差ハ董國の日記
ニ見得シ始なりとあり
京都商人莊助曾テ海東八千里外濃異須般國ニ金銀多産と聞キ往視ルト請ひ此年辛未九月帰朝す
五色羅絣蒲桃酒等を幕府子献す然共奉テ天主教禁制となり再往も許されずとぞ
豊後竹田町所存サンニコ施療院鉤鐘ニ西暦一六一二年符字を銘す乃慶十七年壬午
中川秀成文禄二年竹田城主ト為父瀬兵衛秀高モ高山右近等ト共ニ天主教信者其家紋大轍
太洋之航ニ濃異須般ノ上陸シ又大西洋之標切リ西班牙本國ヨリ羅馬ニ諸リ法王謁見
恩歲正英吉利國王ヨリ日本將軍ニ書翰を贈す其使者セイリス平戸ニ来テ松浦侯鎮信其人其書共ニ
駿府居所ニ送致す幕府其言を納ニ、且天丹禁制セ一層の嚴令を下セリ
英書大要互いの國の様子大通シ向後ハ毎年商船を遣使をサセシの物賣買させ商人
残置双方懇和可被為然上ハ我國へも日本商人を自由ニ呼入候日本の室物を調法ナア善買き
十九年 甲子付兵庫助景澄明年井上外記正繼並ニ幕府銃砲方ト為子孫世職
和蘭獻上の大砲十二門堺浦ニ來テ乃蘭人として大坂城攻ヲ發砲セシム大坂冬陣

1.615 乙卯元年元和

元年 幕府より國友銀治の百目百五十目の大筒二十餘挺急々張立の命あり
大坂夏陣豊臣氏亡此役銃砲方田付景澄放砲して献軍士沈黙せしむ家康其功を賞し砲身ヲ景澄の
二字を象嵌して賜い且砲術師範と命ず三方一圓打方等注音書有リ元和己未元六十四戈
伊勢大漆人角屋七郎次即松本天正中より參河徳相模北の海路交通を司る故ニ徳川幕府より特子
朱印を與へられ内外通航を許されシが星年卯安南ニ日本街ニ建て松本寺ニ立つ
二年 丙辰徳川家康薨後陽宮將軍秀忠ヲ切支丹嚴禁の令も下す又英人ニ渡海免狀を與ふテ平戸
賣買他處不許之トあり慶長年ニ之又浦ト許し元和ニ之平戸トす其間僅ニ八年なり
賣買支丹嚴禁の原因も我ニあらずして彼ニ在りと覺ゆ基督教ニ新舊二派出リ菊斯西國ニ舊教
聖マリ英蘭二國ニ新教ナリ此新舊教義の軋轢ニ商業上ニ利用シ舊教國民ニ惠意あり事奉ニ言立
世子して英蘭ニ切支丹の徒ニモアリテ菊斯西國人れ追拂不レシトアリテナリシム諸カ蘭語エンテニ也
牌面ヨリ室號タル巴愁才一郎(モロクシホウタケ)五國各十五枚其頭札ニ福神ト唱ヘ大黒
賣福人布袋彌五像也之何之浦ト許し元和ニ之平戸トす原國モマリナバコロなど後京門神人の画像
なりシム支丹宗教ニ依テ改描セシムと聞く様ナリ
七年 辛未先是和蘭英吉利互ニ商利を争ひ競争三年庚商竟ニ商會を維持す了能はず此年平戸商館ナ
六年 壬申仙臺使臣支倉六右衛門常等帰朝す姫船ナリ八年壬辰壁たり後三年戊戌常長九年五十二
羅馬法王ハウド第五世の肖像等ニ支倉常長肖像其画羊皮書牘等持返す其品ヲ現ニ伊達伯爵家
所藏ナシ解説セシム祖父大槻磐水所撰了金瓶秋韻ニ寄ナリテ其品ヲ現ニ伊達伯爵家
松木忠門譜ナシ當時船荷等皆當六右衛門常等の事也其國人初驚終則其親遂延請大王而歴年方告歸多得
航の後ニ和蘭人の專籍トタリ紅毛のニ字を直ニオランダトよひナシ至り清の趙北薩華
外諸蕃有紅夷一種面白而眉睫皆赤謂之紅毛夷其民乃荷蘭云
十三年 我元和九年庚也是庚獨逸國刊行の萬本國誌日本國圖を載セ
歐洲人の頭髪總て茶褐色られザ支那ヨリ紅毛人ト呼ふ我即ニテ其稱呼を用ひシジ英人絕
時耶難因憚不能免受台命竟無往還之舉
是年 中房加賀の禪僧慈春庵破字子著して基督教義を論破す達字子テウス(天生出上)
慈春一旦天主教徒ノ名トバザラ庵庵ト號セシム後帰本書と教旨七段一論被
開泰寺南後改羅巴の學藝器物等全く和蘭一國ニ帰し蘭學の稱オ二百三四年の久ニ及ぶ
航の後ニ和蘭人の專籍トタリ紅毛のニ字を直ニオランダトよひナシ至り清の趙北薩華
蕃署雜記ヨリ
一千六百三十三年我が元和九年庚也是庚獨逸國刊行の萬本國誌日本國圖を載セ
地名を葡萄子了因譏モ羅文ナリ但京都浦平戸長崎ニ名レムと大槻江戸を記入セズ蓋
天正初年の國を追刻セシムと管カラ
富士川医博雅速游學中ウルムニ小地の古本店ニ於て獲たりとて余子贈ラリ今々大觀文庫

止年

寛永元年甲子正月三日

春斯班平國船來て通商乞ふ天主教國にて其請を却く
是年和蘭人遂に台灣島を取て所領とする

三月幕春船奉行向井將監正綱紀松子忠勝嗣子亦稱持監食祿六千石水主百人附屬子孫世戰
船奉行の職大綱名義奉行時より見ゆ戰國以來沿海の領主地頭各兵船と偕へ船を又船方の綱高或治賊船ヲ海賊掛除
向井之伊勢度會郡莊名等ノ正綱と其地の住人より危家人となり長久チ小田原兩役ヨ無船之際乃大船を取ち又
運漕を掌す上級船主忠勝少大坊冬降毛尼崎を於て百艘立の大船を造敵の糧船を奪ふと云ふ
上級船主忠勝前長崎三百三十正月四日以後一十七日間ヨ踏繪として契利勤當の業ある所の櫻市井の諸人ヨ踏セ十日後大
陸近き爲存「此繪トシテ而して踏セ日」（）允異邦の船入津すれども其邦中の人々を後悔ト畫し踏マニシテ役ヨ船ナリ
上級船主忠勝前長崎三百三十正月四日以後一十七日間ヨ踏繪として契利勤當の業ある所の櫻市井の諸人ヨ踏セ十日後大
陸近き爲存「此繪トシテ而して踏セ日」（）允異邦の船入津すれども其邦中の人々を後悔ト畫し踏マニシテ役ヨ船ナリ

同四年丁卯六月二十六日

平之の和蘭船より墨書きの底唯人の書いた日本文書にて文言假名交りト林道翁弟承喜相
議し不取の語多かれば變可可トしてあれと却けたり

同五年戊辰六月二十六日

長崎代官末次平藏城交趾貿易船其帰途于台湾ヨ寄港す和蘭官吏其貨物を押收セラうと船頭
瀬田御兵衛謹和蘭長官を威伏せしと貨物を取返して帰る後主事吉田御兵衛記
異聞尚神由支記ハ寛永三年事として且若人城船の功御兵衛ヨアズ天野生太郎右衛門ノ所為也又京部人近藤室主進
弟新蔵ノ細川義重母出船親王の妻の生糸ヨアヌ第用ト延刀紫雲仕又本移布舟御腹保革ヨ長崎川根乾堂家萬慶白旗兵衛達乃
長一下許、強其衝密使持尹余往台灣却甲斐舟甚時所用セド一事數傳然共西洋洋車ヨ管セテ柳記ト黒門開乞社

同六年己巳六月二十六日

此年記入人手書處見出さず故ヨ品白トす
按：史記秦始皇本紀、三十年無事トあり、史例如是。然共自馬寺記之見可日始皇三十年甲申西域沙門
室利防等十八人皆梵本經曲來威陽有司以聞、帝以其異俗、因之利防等、令厚訶般若波羅蜜多光明照耀。
瑞氣盤旋若驚懼至而表、身之瑞事と會し三十年も亦事者リの事なり。

五月異聞 次日本の船難仰遣レ儀壁く停止又異國居住者一切帰國を許マズ帰國ナリ名義之と全丁因ニ御京門と貿易賣買ト子管ナリ倍日十七箇条を長崎奉行ヲ下令し施行セラモ

正統の大將として天下其功を奏す當時却え丹研究したが一謹め其後印封して間もなく二百八十年明治末年主事
正哉博士開封して始て十七世子秀了實政の幕末に御見ゆる所定居坐し

伊曾保物語：四月刊行 上巻二十禁中卷四十禁下巻三十四禁
計九十四條

和蘭商館を卒業より長崎本島子機ト館長即申必丹アンコイヲマクスカメリヤ
此時平戸より附隨セテ阿莖院通内十人 名打ハ右衛門 吉武屋兵衛 石橋佐助 肝付伯右衛門 高砂長左
橋山共ニ石衛門 麦島辰左衛門 佐方利大衛門 有賀傳右衛門 横山又兵衛也
西吉兵衛也又和申シ 嘉慶往天か南雲通船セリ此時既て阿莖院通内ト
八月福岡侯黒田忠之ヨ長崎警備の事を掌ら一レ明更ニ佐賀侯鍋島勝茂ヨ命ナリ一偶年交
代して其任ヲ當ル一レ兵士人ニ傍ふより平人薦所ナ名あり
紅毛火術錄 蘭人ヘイトルカラスブランコフルナトアスニ 人口譯(次出)
嘉慶廿二年正月廿日御前御門 指揮若吉後詔阿莖院人數十平人津住門松平信重等年少者少々才人三人若駒内右近少人若火矢ハジメ火矢
初ノ時ニシテノ細敷火薬より火矢其後江戸ヲオシシニ裏園町ノ日本酒酒呑を志すたる平人乃桔屋林無之類多細敷火薬並由江戸ニ及沙汰
翌年長崎引揚セラ事也

三

五月筑前大島子南蛮黒船漂着其人を捕へ長崎へ送り又江戸へ送致す
外人伊太利國牧師等七八十人至教宣傳したまえと申す江戸子・特ニ日本ニ右船門へ改稱せ小日向子獄舎
さ送り坐す此人生存四十二年貞享二十五年八十四歳
星月和蘭船一隻奥州南部領江津着又其人を江戸子送致す後其中の医師砲師を留め諸士子其技
古学中一已在習す事萬文嘉成居候國守一
長崎に上陸し船頭由良者江戸考所所掌院人即席に被召事外母共通而不安令仰吟
國王レキ西口申由兵兵衛と以て御神使申上怪異仕事其後兵節ハ通籍有属能相勧め段々上闇御即半三百儀侍其持
方十人扶持被下江戸住居就任之後江戸子通籍用無沙玉ノ年一長崎表通詞役奉役如向海後成長崎へ美
哉西國久留米申一星乃
十一月後光明帝即位

三年前詔前漂着黒船中より南蛮天文書を獲て幕行の收めしが乃澤野忠庵又命ありケ譯述せしめ後五年慶安原寅呈進す其言を南蛮運氣論と云ひ也又大光澤寺天文書とも稱す忠庵自叙曰書を歸す其理サ明ニセント欲エレキオ耳賈鉢飢邊ニ表章スル能ハズ是以古今ヲ不恐焉漏ラ不憚焉ミ銀ヲ用テ地子剝シ菅ツ以テア矢ヲ窓フトトミ此之謂坎田ノ天地之精氣無限深矣既至不思之能卷不戴ト云事無ト世界之廣狹四大之大小皆不等トニ事無シ而レテ歲月之深ヲ知リ日夜之長短晝夜之差別ヲ拂フ終テ達術仙士ノ事ニ至ルマテ未必無ナ所傳ト云

徳川家人北條正房は爲錢砲頭長崎子孫もトロムヘナ夕合圍の笛大鼓を和蘭人ニ学ふ
正房初名成良輔安慶守天文中武藏野合戦ヨハ勝名主韓セレ左衛門大夫綱成の曾孫也食祿一千石
幕府鎌砲方井上正綱其著武極集御極集之献丁正綱曾ニ稻富幸大夫直と大砲發射の事を批判
才直賢怒て鞭言ナ竟ニ喧嘩一ト九月ニ經継直賢自刃ナ正綱養子左大夫又爲錢砲方
長崎人林吉右衛門夙々澤野忠庵ヨ就き南蛮流天文学を修めしが切丈舟の難能を受ける事刑
死門人小林謙剪シ本禁錮ニ處セラ

六月黑船二隻長崎入津才鎖國後始工上
黑食人始人氣勃 諸藩士來聚者四千餘人及小
搖船者定行
本主事等
奉行所より江戸を急轍した八月大目付井上正直して國法を諭し此退院せり
長崎通詞由繕書初代西吉兵衛止保四支年南蛮使使者船威艘奉使朝はる而第並前主弓削門佐殿君田忠之幸申遣
馬鹿之節御事内トシテ御仕御達之國通使往候之平津候既二分到策ノ以子御見有旨無異議准仕之是也
萬國茲圖四十國人物圖西國高人豎幅半之縱橫圓形東主立西下人物圖一日半格り長人國終了
原夫世界廣大人難思其異而其人亦殊相貌善短之容色黑白之男女對出據其物特是其大概也衣服冠蓋之制弓劍
干戈之作見聞所得并華圖焉國之見之區域分界人品差別一時盡無餘地是亦格物致知一助爾
正保丁亥季春吉辰於肥前州折郡長崎津問候 埼守の時日同義也